

諏訪内 晶子

Akiko Suwanai (Violin)

1990年に史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール・ヴァイオリン部門優勝。翌年秋からニューヨークへ留学し、日本での活動を休止したが、95年プレヴィン指揮NHK交響楽団定期演奏会で日本での演奏活動を再開した。その後、小澤征爾指揮ボストン交響楽団定期公演およびカーネギーホール演奏会に出演。また、ニューヨーク・フィル、ピッツバーグ響、ロサンジェルス・フィル、ミネソタ管、ワシントン・ナショナル響、パリ管、フランス国立管、BBCフィル、ハレ管、ロシア・ナショナル管、サンクトペテルブルグ・フィル、ブダペスト祝祭管、バイエルン州立歌劇場管、バンベルク響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管などと共演。エヴィアン、マールボロ、ラインガウ、ロッケンハウス、シュレスヴィヒ=ホルシュタインなど国際的な音楽祭にも数多く出演、UBSヴェルビエ祝祭管とは、アジア・ツアーを行った。

2000年にはルツェルン・フェスティバルに、リサイタルおよびクリヴィヌ指揮ヨーロッパ室内管との共演でデビュー、続けてベルリン芸術週間にリサイタルおよびデュトワ指揮ベルリン・フィルと共演してベルリン・デビュー、2001年にはアシュケナージ指揮フィルハーモニア管との共演でロンドン・デビューを果たした。2002年にはオラモ指揮バーミンガム市響のアジア・ツアーにソリストとして参加、2003年には、ルツェルン・フェスティバルに再び出演し、ピエール・ブーレーズ指揮マーラー・ユージェント・オーケストラと共演している。2004年4月には、ボレイコ指揮チェコ・フィルと米国ツアーを行い、引き続きサヴァリッシュ指揮によるフィラデルフィア管定期公演、同年夏にはバーミンガム市響ヨーロッパツアーにもソリストとして参加。ゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管とも共演するなど国際的な活動を続け、2007年9月には、エトヴェシュ作曲の新作ヴァイオリン協奏曲「セブン」(2009年、モナコのピエール王子財団より作曲大賞を受賞)を、ブーレーズ指揮ルツェルン・フェスティバル・アカデミー管とルツェルン・フェスティバルで世界初演、その後日本を含め、世界各地でも初演が行われた。また、2009年上海の春音楽祭に日本人ヴァイオリニストとして初めて招待され、翌年には上海万博にも招聘された。

近年では、BBCプロムス、ブダペストの春音楽祭、グライントティートン音楽祭などにも出演、ゲルギエフ指揮ロンドン響とのツアー、パリ管とのヨーロッパおよび日本ツアー、チェコ・フィルとの中国ツアーを行い、オスロ・フィル、バンベルク響、デトロイト響、トゥールーズ・キャピトル管とも共演した。

現代作曲家作品の紹介も積極的に行い、これまでに三善晃作曲「弦の星たち」の世界初演およびアメリカ初演(1991)、クシシュトフ・ペンデレツキ作曲「ヴァイオリン協奏曲第2番・メタモルフォーゼン」の日本初演(1999)および南米初演(2004)、レーラ・アウエルバッハ作曲「ヴァイオリン協奏曲第2番」の世界初演(2004)、マクミラン作曲「ヴァイオリン協奏曲」の日本初演(2012)および北欧初演(2013)、エサ=ペッカ・サロネン作曲「ヴァイオリン協奏曲」の日本初演(2013)、エリック・タンギ作曲「In a Dream」の世界初演およびフランス初演(2013)、キャロル・ベッファ作曲「ヴァイオリン協奏曲-A Floating World-」の世界初演(2014)、藤倉大作曲「pitter patter」(2017)の世界初演などに取り組んでいる。

レコーディングでは、デッカ・ミュージック・グループとインターナショナル・アーティスト

トとして専属契約を結んでおり、最新作「フランク & R. シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ 他」を含む14枚の

CDをリリースしている。

2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクール、2018年ロンティボー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭 NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。

東京都出身。江藤俊哉氏に師事し、桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学でドロシー・ディレイ、チョーリャン・リンの両氏に学び、同音楽院修士課程修了。その後国立ベルリン芸術大学で、ウーヴェ＝マルティン・ハイベルグ氏にも師事した。

使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。

2018年7月 (1798字)

諏訪内 晶子

Akiko Suwanai (Violin)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBC プロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭 NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。デッカより14枚のCDをリリース。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学んだ。

使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。

(2018年7月 402字)

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

Akiko Suwanai (Violin)

Praised by *The Times* for her “noble playing, with its rhythmic life, taut and rigorous,” Japanese violinist Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. Since then she has enjoyed a flourishing international career and appears regularly with celebrated maestros and foremost orchestras across the globe.

This season Akiko Suwanai debuts at Opéra National de Paris, performing the choreographed version of Salonen’s violin concerto. On this occasion Opéra Bastille sees a series of 13 ballet performances staged by Saburo Teshigawara and conducted by Esa-Pekka Salonen. Other 2017/18 highlights include season opening with the Real Orquesta Sinfónica de Sevilla and John Axelrod, as well as returns to Orchestre de Paris for Sibelius’ Violin Concerto with Paavo Järvi, and Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai for Salonen’s Violin Concerto with Jonathan Webb. Suwanai returns to the Svetlanov State Symphony Orchestra with Vasily Petrenko, Israel Philharmonic Orchestra with Gianandrea Noseda, NHK Symphony Orchestra, Hamburger Symphoniker, National Symphony Orchestra of Taiwan, and Orchestre national du Capitole de Toulouse with Tugan Sokhiev.

An extremely keen chamber musician, Akiko Suwanai enjoys fruitful and longstanding collaborations with several artistic partners. In 2017/18, she will participate in Argerich Festival in Hamburg, Rosendal Festival with Leiv Ove Andsness and embarks on a 3-year Beethoven Violin Sonatas residency at Kumho Art Hall in Seoul. With Boris Berezovsky, she presents their brand-new recital programme in Moscow and St Petersburg. Following their critically acclaimed Decca Classics release featuring works by Frank, Strauss and Takemitsu, Akiko Suwanai also performs with Enrico Pace in Spain.

In recent years, Akiko Suwanai has established collaborations with Bamberg Symphoniker and Detroit Symphony Orchestra with Leonard Slatkin. She performed in Russia with Valery Gergiev and The Mariinsky Orchestra, in Hong Kong with Hong Kong Philharmonic and Lawrence Foster, in Germany with Gürzenich-Orchester Köln and François-Xavier Roth, and in the US with The Philadelphia Orchestra and Pablo Heras-Casado.

Akiko Suwanai is the Artistic Director of the International Music Festival NIPPON which she launched in 2012, offering a variety of orchestral and chamber music concerts, master classes and regular charity concerts for the Great East Japan Earthquake. The Festival also organizes World/Japanese premieres and commissions new works by international composers.

Akiko Suwanai performs on the Stradivarius ‘Dolphin’ violin from 1714, one of the most famous violins known today and previously owned by Jascha Heifetz, which has been kindly loaned to her by the Nippon Music Foundation.

2018/19 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.